国際人文学部　国際文化学科

履修の手引と手続き

＜小　目＞

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー…… 136
Ⅱ　カリキュラム・ポリシー…… 136
Ⅲ　授業科目について…… 137
Ⅳ　授業科目の単位と認定…… 137
Ⅴ　卒業に必要な単位について…… 138
Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位…… 138
Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数…… 141
　1．学科共通科目群…… 141
　2．キャリア形成科目群…… 146
　3．専門基礎科目群…… 147
　4．専門科目群…… 148
Ⅷ　履修申請について…… 156
Ⅸ　正規の履修からはずれる場合…… 156
Ⅹ　試験について…… 157
Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年…… 159
Ⅻ　成　績　発　表…… 159

履修の手引きと手続き

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー

国際人文学部国際文化学科は，以下に掲げる能力を有し，かつ所定の単位を修得した学生に，学士（国際文化）の学位を授与する。

1．知識・理解

・文化の多様性を認識し，そのグローバル化の様相を理解している。

・世界の中の日本の姿を認識し，理解している。

・自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について専門的な知識を有し，適切に理解している。

2．汎用的技能

・一つ以上の外国語について，社会生活に必要な程度の運用能力を持っている。

・日本語を正確に理解し，論理的な文章を書くと同時に，自らの見解をわかりやすく伝達するための方法を知り，実践できる。

・必要な情報を適切な方法で収集し，クリティカルな態度をもって分析，活用することができる。

3．態度・志向性

・異文化社会に属する人々とコミュニケーションをはかり，相互理解に努めようとしている。

・柔軟な思考力と判断力を持って，多様な価値観や思考様式を持つ人々と協調・協働して行動しようとしている。

4．統合的な学習経験と創造的思考力

・グローバル社会を多面的に捉え，そこから自らの見解を形成することができる。

・習得した教養や技能を生かして，グローバル社会における課題を発見し，解決に努めようとしている。

Ⅱ　カリキュラム・ポリシー

国際人文学部国際文化学科では，教育研究上の目的に基づき，グローバル人材を養成するため，以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

●グローバル社会における教養としての言語，専門分野の学修に必要な言語を学べるよう，学科共通科目群Ⅰ（語学）をおく。また，優れた英語力を有する学生を対象として，英語力をさらに高めるための特別な科目をおく。

●情報化社会で必要とされる知識や技能を習得できるよう，学科共通科目群Ⅱ（情報）をおく。

●グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び，国際化社会に生きる人間にとっての教養を身につけ，人文学を学ぶことの意義を明確にできるよう，学科共通科目群Ⅲ（教養）をおく。

●学生生活を充実させ，キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現するため，初年次教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群をおく。

●言語，文学，美術，歴史，社会，ジェンダー，比較文化など，専門分野について学ぶための基礎を身につけられるよう，専門基礎科目群をおく。

●日本，アジア，アメリカ，ヨーロッパなど，世界の文化に関する専門知識を獲得し，活用することができるよう，専門科目群Ⅰ（国際文化）をおく。

●韓国および韓国語が使用される地域の言語・文化・社会についてより深く探究できるよう，専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）をおく。

●専門の学びの集大成をはかることができるよう，専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）をおく。

●専門の学びをより広めたり，卒業後の活動や仕事に結びつけたりしてキャリア形成ができるよう，専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）をおく。

●専門の学びに係る教育職員免許状や学芸員資格などの取得に必要な学びができるよう，専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）をおく。

●比較の観点や学際的な視点を養い，文化をより深く理解できるよう，専門分野以外の科目を履修することを奨励し，自主選択科目枠を設ける。

●学修アセスメント・プランを提示し，ディプロマ・ポリシーが示す能力や学生の成長に伴う達成度を測定，評価する。

Ⅲ　授業科目について

国際人文学部国際文化学科における授業科目は，学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，キャリア形成科目群，専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴから構成されている。

専門科目群Ⅴは教職に関する科目および学芸員資格取得に関する科目で卒業単位に含まれないが，各教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ，卒業単位に含めることができる。

Ⅳ　授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは，一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり，履修した授業科目に対して，試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで，その単位を認定する制度である。

単位の認定は，Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃの４段階の評価により行う。Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｔ・Ｚの評価については，単位を認定しないものとする。なお，Ｎ・Ｈは，単位振替により単位を認定したことを示す。

Ⅴ　卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は，次の表に示すとおりである。

ただし，専門科目群Ⅴの科目は卒業に必要な単位には含まれないので，注意すること。

<table>
<tr><td rowspan="3">学部・学科
系　　列</td><td colspan="4">国際人文学部　国際文化学科</td></tr>
<tr><td colspan="4">単　　位　　数</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際文化コース</td><td colspan="2">韓国語コース</td></tr>
<tr><td>学科共通科目群Ⅰ（語学）</td><td colspan="2">16</td><td colspan="2">16</td></tr>
<tr><td>学科共通科目群Ⅱ（情報）</td><td colspan="2">4</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td>学科共通科目群Ⅲ（教養）</td><td colspan="2">4</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td>キャリア形成科目群</td><td colspan="2">3</td><td colspan="2">3</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目群</td><td>10</td><td rowspan="5">70</td><td>10</td><td rowspan="5">70</td></tr>
<tr><td>専門科目群Ⅰ（国際文化）</td><td>36</td><td>4</td></tr>
<tr><td>専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）</td><td>0</td><td>24</td></tr>
<tr><td>専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）</td><td>8</td><td>8</td></tr>
<tr><td>専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）</td><td>10</td><td>10</td></tr>
<tr><td>専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）</td><td colspan="2">なし※</td><td colspan="2">なし※</td></tr>
<tr><td>自主選択科目。自らの学びを深めるために，上記の科目群より，それぞれの科目群で指定された単位数とは別に，卒業に必要な単位を29単位以上修得すること。他学科履修として，国際交流学科の科目をこれに含めることができる。また，10単位を上限として，他学部の履修として，経営情報学部，福祉総合学部，メディア学部，観光学部の科目を，これに含めることができる。</td><td colspan="2">29</td><td colspan="2">29</td></tr>
<tr><td>計</td><td colspan="2">126</td><td colspan="2">126</td></tr>
</table>

※専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）の各教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ，卒業単位に含めることができる。それ以外の科目は，卒業単位に含まれない。

Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位

１年から２年への進級にあたっては，15単位以上を修得していること。

２年から３年への進級に当たっては，50単位以上を修得していること。

また，「基礎演習ａ・ｂ・ｃ」及び１年次の必修科目の単位を修得していること。ただし，50単位以上の単位取得がある場合には，これらの科目の未修得単位数が４単位以下の者の進級を認める場合がある。

他に，２年次に長期留学をし，海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認める場合がある。

３年から４年への進級にあたっては，３年間の学業を遂行し，77単位以上を修得していること。

各学年に履修する科目群および修得単位数の目安は，次の表に示すとおりである。選択するコースによって卒業要件が異なるため，１年次から学習計画を立てる必要がある。

また，各学期の履修登録については30単位までとし，年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし，大学が教育上適当と認める場合は履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

※標準的な修得単位は次のとおりとする。

■国際文化コース

科　目　群	必修／選択	１年次	２年次	３年次	４年次		科目群合計	必修科目 コース必修科目
学科共通科目群Ⅰ（語学）	選択必修	8	4			12	16	Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ　※ 第二外国語ⅠA・ⅠB
	選択		2	2		4		英語または第二外国語
学科共通科目群Ⅱ（情報）	必修	2				2	4	コンピュータ技能Ⅰ
	選択	2				2		（推奨）情報メディア論
学科共通科目群Ⅲ（教養）	選択	2	2			4	4	
キャリア形成科目群	必修	2	1			3	3	基礎演習ａ・ｂ・ｃ
専門基礎科目群	選択	6	4			10	10	
専門科目群Ⅰ（国際文化）	コース必修	2				2	40	国際文化入門
	選択	10	14	14		38		（推奨）国際文化プロジェクトａ・ｂ
専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）	選択							
専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）	必修			2	6	8	10	国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （選択必修）「卒業論文」または「卒業制作」
	選択		2			2		（推奨）国際文化研修
専門科目群Ⅳ（言語･文化･社会関連）	選択	2	4	4		10	10	
専門科目群Ⅴ（教職･学芸員関連）								
自主選択科目		4	6	17	2	29	29	（推奨）キャリア形成演習 インターンシップ
学年別修得単位数　計		40	39	39	8	126	126	

※優れた英語能力を有すると認められた者は，「Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ」「Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ」に代わり，「English for Advanced Studies a・b・c」「English for Specific Purposes a・b・c」のクラスを指定する。

■韓国語コース

科　目　群	必修／選択	1年次	2年次	3年次	4年次		科目群合計	必修科目 コース必修科目
学科共通科目群Ⅰ （語学）	選択必修	4	4			8	16	Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ ※
	選択	4	2	2		8		（推奨）韓国語
学科共通科目群Ⅱ （情報）	必修	2				2	4	コンピュータ技能Ⅰ
	選択		2			2		（推奨）情報メディア論
学科共通科目群Ⅲ （教養）	選択	2	2			4	4	
キャリア形成科目群	必修	2	1			3	3	基礎演習ａ・ｂ・ｃ
専門基礎科目群	選択	4	4	2		10	10	
専門科目群Ⅰ （国際文化）	選択	2	2	4		8	8	
専門科目群Ⅱ （韓国にかかわる言語・文化・社会）	コース必修	10	4			14	34	韓国現代文化 韓国語コミュニケーションⅠａ・Ⅰｂ 韓国語コミュニケーションⅡａ・Ⅱｂ 韓国語コミュニケーションⅢａ・Ⅲｂ
	選択	6	6	8		20		（推奨）韓国語プロジェクトａ・ｂ
専門科目群Ⅲ （ゼミ研修・実践）	必修			2	6	8	8	国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （選択必修）「卒業論文」または「卒業制作」
専門科目群Ⅳ （言語・文化・社会関連）	選択	2	4	4		10	10	
専門科目群Ⅴ （教職・学芸員関連）								
自主選択科目	選択	2	8	17	2	29	29	（推奨）留学プランニング キャリア形成演習 インターンシップ 国際文化研修
学年別修得単位数　計		40	39	39	8	126	126	

※優れた英語能力を有すると認められた者は，「Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ」「Oral Fluency Ⅰ・Ⅱ」に代わり，「English for Advanced Studies a・b・c」「English for Specific Purposes a・b・c」のクラスを指定する。

Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

⑴「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は，数字の順序に従って履修するものとする。「ⅠＡ・ⅠＢ」は原則としてⅠＡを先に履修すること。

⑵「ａ・ｂ」はどちらを先に履修してもよい。また，どちらか一方のみの履修も可とする。

⑶　ただし，実際の履修についてはシラバスに記された各科目の履修要件をよく読み確認すること。

⑷　単位数を〇で囲んだ科目は必修を示す。

⑸　本学は春学期・秋学期の二学期制をとっている。基本的に大多数の科目は，どちらかの学期に開講される。ただし，一部に一年間（春学期・秋学期）を通して履修する通年科目がある。また，夏期と冬期には集中講義期間があり，集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに，研修・インターンシップ等は，学期の枠と関係なく実施される場合もある。

⑹　全ての授業科目は，年度初めに履修登録を行う。

⑺　原則として上位学年の者は，下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば１年次の枠のみに指定されている科目でも，２年次以上になってから履修できる。但し，授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので，それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

1. 学科共通科目群

学科共通科目群は，同Ⅰ（語学），同Ⅱ（情報），同Ⅲ（教養）の３系列に分かれている。それらの各科目群の中から「Ⅴ　卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得しなければならない。

⑴　学科共通科目群Ⅰ（語学）

国際人文学部国際文化学科の基本をなす科目群であり，国際化社会に生きるための教養としての言語，さらに専門分野の学修に必要な言語を学ぶための科目を配置している。コースによって卒業要件が異なるため，備考欄をよく参照すること。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	Fundamentals of English Ⅰ	2				16単位	■日本で12年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生，ならびにN2相当以上の日本語能力を有する学生
	Oral Fluency Ⅰ	2					
	Fundamentals of English Ⅱ		2				
	Oral Fluency Ⅱ		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	English for Advanced Studies a	2					Fundamentals of English Ⅰ から English for Specific Purposes c までの10科目より4科目を選択必修。 English for Advanced Studies a から English for Specific Purposes c までの6科目は優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	English for Specific Purposes a	2					
	English for Advanced Studies b	2					
	English for Specific Purposes b	2					
	English for Advanced Studies c		2				
	English for Specific Purposes c		2				
	TOEIC: Vocabulary Ⅰ	2					
	TOEIC: Grammar & Listening Ⅰ	2					
	TOEIC: Vocabulary Ⅱ		2				
	TOEIC: Grammar & Listening Ⅱ		2				
	Basic Writing Skills	2					
	Intermediate Grammar	2					
	Intermediate Practical Discussion Skills	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Business English Writing		2				**◆国際文化コース** (1)英語4科目8単位を含め，16単位以上修得すること。 (2)英語以外の言語から一言語を選択し，ⅠA・ⅠBの2科目4単位を必ず修得すること。 (3)その他4単位は，英語もしくは英語以外の言語から自由に選択することができる。
	Spoken Business English		2				
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語Ⅱ	2					
	ドイツ語Ⅲ		2				
	ドイツ語Ⅳ			2			
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ	2					
	フランス語Ⅲ		2				
	フランス語Ⅳ			2			
	スペイン語ⅠA	2					
	スペインⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ	2					
	スペイン語Ⅲ		2				
	中国語ⅠA	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	中国語ⅠB	2					**◆韓国語コース** (1)上記の英語4科目8単位を含め，16単位以上修得すること。 (2)その他8単位は，すべての言語から自由に選択することができる。 既に韓国語を習得している学生については，そのレベルにより「韓国語ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の中から単位認定する場合がある。
	中国語Ⅱ	2					
	中国語Ⅲ		2				
	中国語Ⅳ			2			
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語Ⅱ	2					
	韓国語Ⅲ		2				
	韓国語Ⅳ			2			
	韓国語検定演習a	2					
	韓国語検定演習b		2				
	韓国語検定演習c			2			
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ	2					
	ハンガリー語Ⅲ		2				
	ハンガリー語Ⅳ			2			
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語Ⅱ	2					
	ポーランド語Ⅲ		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語Ⅱ	2					
	チェコ語Ⅲ		2				
	日本語中上級a（総合）	2					■留学生・指定された帰国生徒等対象 **日本語8単位を含み16単位を選択必修** 選択の8単位分は，日本語以外の科目で修得することができる。（ただし，母語は除く）
	日本語中上級b（受容）	2					
	日本語中上級c（口頭産出）	2					
	日本語中上級d（筆記産出）	2					
	日本語中上級e（言語知識）	2					
	日本語中上級f（聴解）	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	日本語中上級 g（読解）	2					
	日本語上級 a（総合）	2					
	日本語上級 b（映像作品の日本語）	2					
	日本語上級 c（現代文章を読む）	2					
	日本語上級 d（口頭発表）	2					
	日本語上級 e（論文作成）	2					
	ビジネス日本語Ⅰ	2					
	ビジネス日本語Ⅱ	2					
	日本語プロジェクト学習 a	2					
	日本語プロジェクト学習 b	2					
	Basic Japanese a	4					指定された交換留学生・短期留学生を対象とする。
	Basic Japanese b	4					
	Basic Japanese c	4					
	Basic Japanese d	4					
	Japanese Language Proficiency Test a（Knowledge）	2					
	Japanese Language Proficiency Test b（Comprehension）	2					
	Intermediate Japanese a	4					
	Intermediate Japanese b	4					
	Japanese Project a	2					
	Japanese Project b	2					

〔備考〕

(1) 学科共通科目群Ⅰでは，第一外国語として英語を学ぶ。うち，Fundamentals of English Ⅰ・Ⅱ，Oral Fluency Ⅰ・Ⅱは必ず選択すること。ただし，優れた英語能力を有する者は，English for Advanced Studies a から English for Specific Purposes c の 6 科目からいずれかの科目の履修を指定する。

(2) Fundamentals of English Ⅱ，Oral Fluency Ⅱを履修するためには，履修前提条件として，それぞれのⅠを修得していなければならない。

(3) 英語科目を履修する場合は，プレイスメントテストを受験すること。入学時は，オリエンテーション期間に実施する。2年次の履修に向けては，毎年2月にプレイスメントテストを実施する。

(4) 日本語科目は，日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2，N1）を選択すること。

(5) 日本語能力がN2相当の水準に達していない場合は，語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

⑵　学科共通科目群Ⅱ（情報）

情報化社会で必要な，パソコンやインターネットなどに関する知識とスキルを習得する科目を配置している。１年次には「コンピュータ技能Ⅰ」を必修として学ぶ。これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅱ（情報）	情報メディア論	2				４単位	両コースとも，必修２単位を含み４単位以上修得すること。
	コンピュータ技能Ⅰ	②					
	コンピュータ技能Ⅱ		2				

⑶　学科共通科目群Ⅲ（教養）

この科目群は，グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び，国際化社会に生きる人間としての教養を身につけ，人文学を学ぶことの意義を明確にすることを目的としている。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅲ（教養）	歴史・文化の視点	2				４単位	両コースとも，２科目４単位を選択必修
	異文化理解	2					
	世界の中の日本	2					
	コミュニケーションの基礎	2					
	ビジネス入門	2					
	ジェンダー論	2					

2. キャリア形成科目群

「基礎演習ａ・ｂ」は１年次，「基礎演習ｃ」は２年次の必修である。大学で学ぶための基礎的な学力を身につけることや専門分野への導入を目的としている。また，キャリア形成への意識開発と目標設定を行うことも目的としている。

「キャリア形成演習」「留学プランニング」「インターンシップ」は，いずれも選択科目である。

留学を予定する者は，「留学プランニング」を履修すること。

「キャリア形成演習」「インターンシップ」はあわせて履修することが望ましい。「キャリア形成演習」は，就職活動への準備を行うことを目的としている。「インターンシップ」では，企業や各種団体において所定の期間，就業体験をする。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
キャリア形成科目群	基礎演習ａ	①				３単位	両コースとも，３科目３単位必修
	基礎演習ｂ	①					
	基礎演習ｃ		①				
	キャリア形成演習			1			
	インターンシップ			3			
	留学プランニング	2					

※「基礎演習ａ・ｂ・ｃ」を修得していない場合は，原則として，専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）における「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は，履修できない。

3. 専門基礎科目群

言語，文学，美術，歴史，社会，比較文化など，専門分野について学ぶ上での基礎を身につけるための科目群である。併せて，実技のスポーツ科学をおく。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	比較文化概論	2				専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ～Ⅳを合計して70単位	両コースとも，10単位以上選択必修
	文化人類学	2					
	言語学概論	2					
	日本文学概論	2					
	視覚文化論	2					
	政治学入門	2					
	社会学入門	2					
	法律学概論	2					
	日本国憲法	2					
	日本の歴史 a	2					
	日本の歴史 b	2					
	外国史概説	2					
	異文化間コミュニケーション論		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌		2				
	倫理学概論		2				
	宗教学概論		2				
	スポーツ科学Ⅰ a	1					
	スポーツ科学Ⅰ b	1					

4．専門科目群

専門科目群は，専門科目群Ⅰ（国際文化），専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会），専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践），専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連），専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）の５系列に分かれている。ⅠとⅡの科目群は，「国際文化コース」「韓国語コース」の二つのコースによって修得する単位数や必修科目が異なるので注意が必要である。どちらかのコースを各自の専門として選択し，４年次には各自の研究内容を文章や作品の形で集大成する。したがって，コースを念頭において，１年次から計画的に履修し，系統立てて学習する必要がある。

⑴　専門科目群Ⅰ（国際文化）

「世界から見た日本，日本から見た世界」を基本理念に，日本，アジア，アメリカ，ヨーロッパなど，世界の文化に係る専門知識を獲得し，同時に，文化比較により日本文化を世界的視野で見直し，世界に発信できる能力，世界で活用できる能力を身に付ける。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備　考
		１年	２年	３年	４年		
専門科目群Ⅰ（国際文化）	国際文化入門	2				専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ～Ⅳを合計して70単位	◆国際文化コース コース必修「国際文化入門」を含み18科目36単位以上修得すること。 ◆韓国語コース ２科目４単位以上修得すること。
	日本の伝統文化	2					
	日本の現代文化	2					
	日本民俗学	2					
	日本地理	2					
	日本文化論		2				
	日本語表現	2					
	日本文学史		2				
	日本の文学ａ（古典）		2				
	日本の文学ｂ（近・現代）		2				
	アメリカ文化概論	2					
	アメリカ文学概論	2					
	アメリカの歴史	2					
	ラテンアメリカの歴史		2				
	ドイツの社会と文化	2					
	中国概論	2					
	中国の歴史	2					
	中国経済入門		2				
	日本美術	2					
	西洋美術	2					
	比較文学論		2				
	沖縄文化交流史		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ（国際文化）	文化交流史a（日本：アジア）		2				
	文化交流史b（日本：欧米）		2				
	日本とアジア		2				
	日本と北米		2				
	日本と中南米		2				
	日本とヨーロッパ		2				
	日中比較文化			2			
	多文化社会論			2			
	International Communication		2				
	Language Acquisition		2				
	Multimedia Production		2				
	Images of Japan：Literature and Film			2			
	Variable Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation			2			
	日本語学概論a	2					
	日本語学概論b	2					
	日本語の文法a	2					
	日本語の文法b	2					
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の音声		2				
	英語学概論a	2					
	英語学概論b	2					
	英語コミュニケーションⅠ	2					
	英語コミュニケーションⅡ	2					
	中国語コミュニケーションⅠ	2					
	中国語コミュニケーションⅡ	2					
	クリティカル・リーディング		2				
	国際文化プロジェクトa	2					
	国際文化プロジェクトb			2			

⑵　専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）

日本が過去および現在，密接な関係をもち，未来においても相互の関係の発展が求められる韓国および韓国語が使用される地域の言語・文化・社会について総合的に学び，より深く探究することを目的とする科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ（韓国にかかわる言語・文化・社会）	韓国語コミュニケーションⅠa（話す・聞く）	2				専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ～Ⅳを合計して70単位	■韓国語コース コース必修「韓国語コミュニケーションⅠa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb」「韓国現代文化」7科目14単位を含み12科目24単位以上修得すること。
	韓国語コミュニケーションⅠb（書く・読む）	2					
	韓国語コミュニケーションⅡa（話す・聞く）	2					
	韓国語コミュニケーションⅡb（書く・読む）	2					
	韓国語コミュニケーションⅢa（話す・聞く）		2				
	韓国語コミュニケーションⅢb（書く・読む）		2				
	韓国現代文化	2					
	韓国の歴史	2					
	韓国の社会	2					
	韓国の文学		2				
	日韓通訳技法Ⅰ		2				
	日韓通訳技法Ⅱ			2			
	日韓翻訳技法Ⅰ		2				
	日韓翻訳技法Ⅱ			2			
	日韓比較文化			2			
	韓国語プロジェクトa	2					
	韓国語プロジェクトb			2			

〔備考〕

(1) 韓国語コースを選択する者は，1年次から計画的にコース必修科目を履修すること。

⑶　専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）

この科目群は，演習と研修から構成される。

「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」は３年次，「国際文化演習Ⅲ・Ⅳ」は４年次の必修である。「Ⅰ・Ⅱ」では研究法や論文作成法，口頭発表法を実践的に学び，「Ⅲ・Ⅳ」では４年間の学びや活動の集大成として作品を制作したり，報告書や卒業論文をまとめたりする。

研修の内容は，「コミュニケーションインターンシップ」「国際文化研修ａ（海外）・ｂ（国内）」であり，いずれも選択科目である。「コミュニケーションインターンシップ」は，海外において日本語教授の実習を行うもので，日本語教員養成課程（副専攻）の一環でもある。「国際文化研修ａ・ｂ」は，海外あるいは国内に設定されたコースで研修を行う。当該地域の文化を現地において体験し，新たな知識と視野を獲得することを目的とする実践科目である。

１～３年次において，いずれかの研修に参加することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備　考
		１年	２年	３年	４年		
専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）	国際文化演習Ⅰ			①		専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ～Ⅳを合計して70単位	両コースとも，必修４単位，「卒業論文」「卒業制作」のどちらか４単位を含み８単位以上修得すること。
	国際文化演習Ⅱ			①			
	国際文化演習Ⅲ				①		
	国際文化演習Ⅳ				①		
	卒業論文				4		
	卒業制作				4		
	コミュニケーションインターンシップ	3					
	国際文化研修ａ（海外）	2					
	国際文化研修ｂ（国内）	2					

〔備考〕

⑴「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修するためには，原則として，キャリア形成科目群における「基礎演習ａ・ｂ・ｃ」を修得していなければならない。

⑷　専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）

専門の学びをより広め，大学における学びを卒業後の活動や仕事に結びつける科目を配置している。国際的な場で仕事をするための知識や視点を習得する科目，専門職に必要な知識や技能を習得する科目，日本語教員や学芸員の資格取得を目指す科目が配置されているので，個々の目標を立てて履修していくことが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）	国際法			4		専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ～Ⅳを合計して70単位	両コースとも，10単位以上修得すること。
	国際経済学			2			
	国際関係論			4			
	翻訳の基礎（英日）			2			
	日中翻訳技法Ⅰ		2				
	日中翻訳技法Ⅱ			2			
	日中通訳技法Ⅰ		2				
	日中通訳技法Ⅱ			2			
	日本語教授法ａ（教授法）		2				
	日本語教授法ｂ（コースデザイン・評価）		2				
	日本語教授法ｃ（教材・教具）		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習			4			
	第二言語習得論		2				
	言語学			2			
	家族論	2					
	アジアの女性論	2					
	アジア国際関係論		4				
	中欧の社会と文化	2					
	中欧地域文化研究			2			
	中欧地域社会研究			2			
	近代イギリス文学		2				
	生涯スポーツ概論	2					
	漢文講読		2				
	書道（書写中心）		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）	経済原論 a		2				
	経済原論 b		2				
	文化遺産		2				
	生涯学習論	2					
	ミュゼオロジー入門	2					
	ミュージアムと展示	2					
	ミュージアムと情報・メディア	2					
	ミュージアムと教育	2					
	ミュージアム・マネジメント		2				
	ミュージアムの資料		2				
	ミュージアムと資料保存		2				
	国際文化特別講義			2			

⑸　専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）

専門の内容以外に，教育職員免許状や学芸員資格などの取得に必要な科目を配置する。本科目群の履修単位は，卒業単位に含まれないが，教職課程を履修している者のみ各教科教育法を卒業単位に含めることができる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備　考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）	博物館実習Ⅰ			2			各教科教育法は，教職課程を履修している者のみ履修することができ，かつ修得単位を卒業に必要な単位数に算入することができる。
	博物館実習Ⅱ				1		
	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
	国語科教育法Ⅰ			2			
	国語科教育法Ⅱ			2			
	国語科教育法Ⅲ			2			
	国語科教育法Ⅳ				2		
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	地理歴史科教育法Ⅰ			2			
	地理歴史科教育法Ⅱ			2			
	道徳教育の理論と方法	2					
	総合的な学習の時間の指導法		2				
	特別活動論		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅴ（教職・学芸員関連）	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		

Ⅷ　履修申請について

各年次において履修しようとする科目は，年度の初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は，年間の受講計画を立て単位を取得する意思表示をする重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために，授業科目の履修ができなくなり，その結果，進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので，以下に掲げる注意事項を厳守して，誤りの無いように履修申請をすること。

⑴　履修科目の変更，追加，取消しなどが無いよう，入力をする前に授業時間割表に則して再確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，ポータルサイトで間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

⑵　登録科目の変更を行う場合は，それぞれの学期において登録科目の訂正期間，削除期間を設けてあるので，その期間に必ず手続きを行うこと。その際は，変更完了を確認できるよう，メール転送を設定し，必ず確認すること。

⑶　履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められない。また，修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

⑷　同一学期の同一時限に２つ以上の授業科目を履修することはできない。

⑸　一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。

⑹　Web 履修登録では，授業科目を正しく入力すること。入力上の誤りがあると申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，時間がかかるとタイムアウトになる可能性があるので，登録する講義や時間割の下書きを予め準備してから入力すること。なお，大学内に設置されている PC の台数は限られているので，Web 履修登録のために長時間占有しないこと。

⑺　履修の都合によりコマ・コード番号が必要となる場合がある。コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。

⑻　指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となることがあるので入力期限を厳守すること。

⑼　教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドヴァイザーもしくは学部事務室に相談すること。

Ⅸ　正規の履修からはずれる場合

１．再　履　修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

2．規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，必ず学部事務室に相談すること。ただし１年次生の規定外履修は原則として認めない。

X　試験について

1．定期試験および臨時試験

⑴　試験は定期試験と臨時試験があり，定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い，臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。

⑵　いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には，原則として当該授業科目の受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については，本学生便覧の「学生生活のしおり授業関係」ページに記載されているので，必ず確認すること。

⑶　試験の時間割は掲示により連絡する。

⑷　授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2．追　試　験

⑴　追試験はやむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し，原則として学期末または学年末に実施する。

⑵　追試験を希望する者は，正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。

⑶　追試験は成績表の当該科目にＴの表示がなされた場合に限って受験することができる。

なお，追試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

⑷　追試験を受験しようとする者は，「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，追試験の受験料は１科目につき200円である。

3．再　試　験

⑴　再試験は，原則として学期末または学年末に実施する。但し，授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

⑵　定期試験の結果，不合格（この場合成績表の当該科目にＦの表示がなされる）となった授業科目のある者は，当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合に限り，再試験を受験することができる。

なお，再試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

⑶　再試験の受験を許可された者は，「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，再試験の受験料は１科目につき1,000円である。

4．試験に関する注意

1．通　則

⑴　試験場内では，すべて監督者の指示に従わなければならない。なお，監督者の指示に従わない者には，退場を命ずることがある。

⑵　試験場内では，筆記用具・持込みを許された資料以外のものはすべて監督者の指定する場所におかなければならない。

⑶　受験者は学生証または受験許可証を机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。

⑷　試験開始から20分を経過した後は入室，受験を認めない。

⑸　試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。

⑹　受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。

⑺　試験の行われる学期の授業料が未納の者，授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。

⑻　病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2．試験における不正行為の懲戒について

⑴　不正行為をした者は，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。

　また，不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位を認定しない場合がある。

⑵　不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。

⑶　学長は保証人を召喚して懲戒処分について通知すると共に学内にこれを公示する。

3．試験における不正行為とは

⑴　他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。

⑵　本人以外の名前・学籍番号で受験すること。

⑶　許可されていないものを使用すること。

⑷「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。

⑸　その他，試験監督の指示に従わないこと。

⑹　論文・レポート等において，剽窃行為をすること。

　※剽窃行為：引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反す

る行為。

Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年

1．単位認定

⑴　各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。

⑵　100点を満点とし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。

その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～ 90点
A	89点～ 80点
B	79点～ 70点
C	69点～ 60点

⑶　再試験における評価は60点を合格とし，79点を上限とする。

⑷　再試験における成績評価の最高点は，定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2．進級及び留年

⑴　２～４年次への進級については，指定された進級要件を満たした場合に可能となる。なお，指定された進級条件を満たさない場合（138ページ参照）においても，進級を認める場合がある。

⑵　４年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

Ⅻ　成績発表

⑴　成績発表では，アドヴァイザーまたは演習担当教員より本人に成績表を交付するので，学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際，学生証を提示すること。なお，指定された期日以外には交付しない。

⑵　成績の評価は次の記号で表わし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。

（合　格）	（正規試験不合格）	（追・再試験不合格）
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A： 89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B： 79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし 評価不能	
C： 69～60点		

⑶　成績表には，学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。

詳細については，Web 履修登録画面にて確認すること。

⑷　成績についての疑問，質問等は成績表交付日のみ受け付けるので，学部事務室に問合わせること。

⑸　事故，病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は，代理人を定め，成績表の交付を受けること。その場合，代理人は学生証および委任状を持参すること。